

「新型コロナウイルスのゲノム解析に関する検討チーム」 による検討について

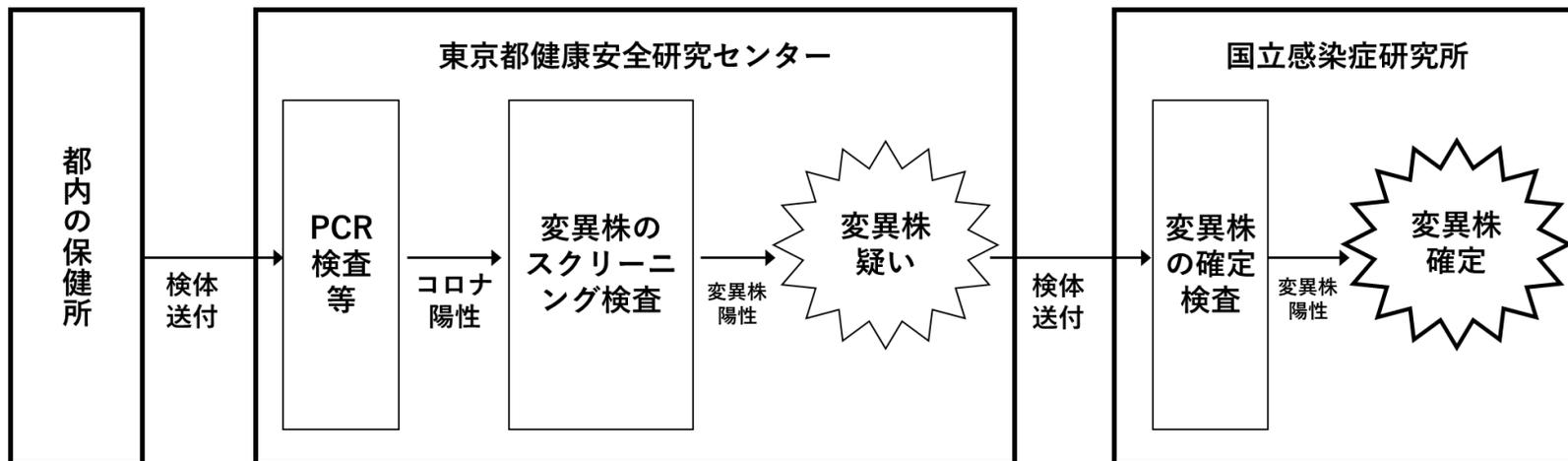
資料3

都内でもイギリス等で流行している変異株と同様のウイルスが確認されたことから、東京iCDCの専門家ボードメンバーや外部アドバイザーを結集し、新たな検討チーム（※メンバーは別紙のとおり）を12月28日にタスクフォースとして立ち上げ、都内での変異株による感染状況を把握する。

1 健康安全研究センターにおける変異株スクリーニングのスキーム

- 都内で採取された検体の一部が各保健所より健康安全研究センターに持ち込まれる。
- 同センターの新型コロナウイルス検査（PCR検査等）により陽性となった検体について、リアルタイムPCR法により変異株のスクリーニングを行う。
- スクリーニングの結果、「変異株疑い」となった場合、国立感染症研究所に検体を送付し、確定検査を行う。

<都における変異株のスクリーニングの流れ>



2 都内での変異株の発生状況

(1) 健康安全研究センターにおけるスクリーニング数（令和3年2月8日現在）

合計	12/27まで	12/28～1/3	1/4～1/10	1/11～1/17	1/18～1/24	1/25～1/31	2/1～2/7	2/8～2/9
1,893	189	180	482	371	285	246	133	7

(2) 変異株の発生状況（令和3年2月9日現在）

海外とのリンクがない変異株（健安研スクリーニング） 2例 ※都公表：1/22、1/29

<参考>

海外とのリンクがない変異株（全国） 37例

※国公表：

1/18静岡3例 1/21静岡1例 1/22東京1例 1/25東京1例 1/28埼玉3例 1/29東京1例

1/30埼玉4例・東京1例 2/1埼玉2例 2/3埼玉2例 2/5埼玉11例 2/8埼玉3例・兵庫4例

3 さらなる対応方法の検討

(1) スクリーニング体制の強化

- 1/28 海外渡航歴のある者およびその濃厚接触者、集団感染発生時における陽性者の一部（1集団につき3検体目安）の検体を健安研に搬入するよう、保健所あて依頼（保健所長会で説明）
- 民間検査機関へのスクリーニング拡大方法の検討

(2) 関係機関との連携強化

- 厚生労働省、国立感染症研究所、民間検査機関、保健所等と打合せ・情報共有等を随時実施

現在のところ、都内で変異株が市中に面的に広がっていることは確認されていないが、保健所と連携して疫学調査を進めるとともに、今後広がってくる可能性も視野に入れ、引き続き国と連携してスクリーニング体制の強化を図っていく。

「新型コロナウイルスのゲノム解析に関する検討チーム」メンバー（1月22日時点）

河岡	義裕	東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター センター長
賀来	満夫	東北医科薬科大学 医学部 感染症学教室 特任教授／東北大学名誉教授
長谷川	秀樹	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター センター長
石井	良和	東邦大学 医学部 微生物・感染症学講座 教授
中村	茂樹	東京医科大学 微生物学分野 主任教授
大曲	貴夫	国立国際医療研究センター 国際感染症センター長
小原	道法	東京都医学総合研究所 感染制御プロジェクト 特任研究員
吉村	和久	東京都健康安全研究センター 所長
貞升	健志	東京都健康安全研究センター 微生物部 部長

（順不同・敬称略）